

平成26年度
学校関係者評価報告書

《実施日：平成26年 7月18日》

学校法人 新潟総合学院
郡山情報ビジネス専門学校

学校法人新潟総合学院 郡山情報ビジネス専門学校 学校関係者評価報告について

本校では、平成 23 年度から、すべての教育内容や通常の業務において現状を点検し、更なる改善・向上を図っていくため自己点検・評価に取り組んでおります。平成 24 年 7 月には自己点検を実施し、評価報告書を取りまとめ、本校のホームページ上で公表いたしました。

また、平成 25 年度からは、本校に関係の深い企業・団体の方々を中心にご意見等を幅広くお聞きして今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、「学校関係者評価」を実施しております。

平成 26 年度におきましても、去る7月 18 日に学校関係者評価委員会を開催し、委員の皆様から多くの貴重なご意見やご指導をいただき、改めて学校評価の重要性を認識したところです。

ここに、学校関係者評価の内容について報告いたします。今後とも、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存でありますので、引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成26年 9月

学校法人新潟総合学院

郡山情報ビジネス専門学校

学校長 小林 一雄

1 . 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の学校関係者評価は前年に引き続き、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「平成25年度自己点検・評価報告書」について、本校に関係の深い企業・団体の方々と本校校長とで構成する評価委員(委員一覧表)に評価していただいた。

各評価委員には、事前に前記の自己点検・評価報告書及び学校評価に関連する資料等を配付した上で、学校を代表し校長が説明し意見等を聴取した。

評価委員からの意見は、進行担当として参加した教務部長・学科長が、その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

自己点検・評価報告書(平成25年版)と併せてご覧いただきたい。

2. 学校関係者評価委員一覧表（敬称略）

評価委員	企業・団体	役職	備考
永山 三郎	元 郡山情報ビジネス専門学校校長		
鈴木 秀明	郡山商工会議所	開発事業部 部長	
三部 吉久	税理士法人 三部会計事務所	代表社員 所長	
桑原 一徳	郡山情報ビジネス専門学校同窓会会長		
影山 幸一	福島交通観光株式会社	郡山支店 営業課長	
小林 一雄	郡山情報ビジネス専門学校	校長	（進行担当）

3. 委員会次第（概要）

全体進行を本校教務部長が担当

(1) 開 会

(2) 学校長挨拶

(3) 学校評価に係る経緯説明

学校長から、委員会資料「学校関係者評価の実施にあたって」、「専修学校における学校評価ガイドライン概要」に基づき、学校評価の目的や必要性及び経緯について説明した。

(4) 平成 25 年度自己点検・評価報告

学校長から、沿革を含めた概要（現状）について説明の後、「平成 25 年度学校法人新潟総合学院 郡山情報ビジネス専門学校 自己点検・評価報告書」の点検・評価項目（1～9）達成状況及び取組状況について、課題及び改善策等を報告した。

平成 25 年度自己点検・評価については、前年度の委員会での指摘を受けて、項目の評価を「有・無」から「1・2・3・4」の段階評価に変更し実施した旨の説明を付加した。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対するご意見やご指導をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

(7) 閉 会

4 . 平成 25 年度自己点検・評価報告および討議・意見交換について

自己点検・評価報告書」の点検・評価項目(1～9)達成状況及び取組状況について、課題及び改善策等を報告した。本校に対しての要望等を含め、点検・評価項目に関する貴重なご意見をいただいた。

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

上記について、学生の手引き、保護者説明会資料等にて周知徹底を図っている。

(5.【学外】各修業期間における教育目的・目標が文書化され、教育計画が文書化され、公表されているか。)についても、保護者会資料等にて公表するように改善している。

2 教育の内容

カリキュラム・シラバスについて

カリキュラムは、教育編成委員会の意見も取り入れながら作成している。

シラバスは、週単位で作成しており、時間単位での作成には至っていない。学生への配布も一部授業に留まっている。

<委員の意見>

カリキュラムの内容はその時その時に変えなくてはならない可能性もあり、保護者や生徒に示すという事にとらわれて授業内容が硬直化する恐れもある。3くらい出来ていれば評価としては一般的に高いと考える。

授業アンケートについて

アンケートは、学習内容に関して学生がどう感じているか、その先生が指導に関して声が適切か、資質の部分で服装や公平性などについてなど、内容を30項目程度で確認していく内容になっている。例年、評価の常に良い教員も勿論いるが、その年その年によって評価が上下する教員もいるので、評価の良し悪しに関わらず、何かしらのフォローをしていかなければならないと考えているが、全員へのフォローアップが出来ていないのが現状で「評価2」としている。

昨年度ご指摘を受けた非常勤講師へのフィードバックについては、今年度から全員への実施を計画している。

キャリア教育・リメディアル教育について

基礎学力の低下が社会問題になっているが、本校でも専門科目を進める上で基礎学力の底上げが必要と考えて取り組んでいる。具体的にはSPIや一般常識など、就職も視野に1年次に週1回、基本的な問題で構成されたテキストを使用し復習する時間を全学科に導入している。

<委員のからの意見・情報提供>

大学では推薦入学が非常に幅広く取り入れられている。一つの高校から一つの大学に実際に50人も入学するケースもある。それが工学の場合、数学が出来ないとその後の授業を進めるのが非常に難しい。だから入学後すぐに高校数学の指導をする。そういう時代になってきている。

昔であれば、ある程度のレベルの者しか大学には入れなかったが、現在はある意味では総合力で入学できる。そうすると一番大切な数学の力が無い者でも入学出来るので、大学では入ってすぐに数学をやる大学がかなり多い。それをやらないとその後の授業が成り立たない状況がある。

学生に対しては、「今一度復習してみよう。」という意識付けは必要と思う。

他の高等教育機関との連携講座について

現在は姉妹校連携で一部実施に留まっているが、次年度以降、こども保育科では大学との単位互換を推進する計画である。

教員の質向上について

今年度より研修計画を充実させて実施している。

3 教育の実施体制

図書室・図書コーナーについて

一部教室を整備し就職情報コーナーと併せて、学生が利用できる参考図書・関連図書を整備している。今後も整備・拡充を図っていく。

4 教育目標の達成度と教育効果

上記について、各学科の教育目標(検定合格、コンペ入賞、就職内定など)を設定し教職員で共有化している。また、その結果については、業務報告にて報告され、外部に向けては、パンフ、HP、保護者向け書面等にて公表されている。

卒業生の卒業後の状況把握は一部の実施に留まっており公表には至っていない。今後は同窓会にも協力を仰ぎ検討したい。

5 学生支援

各学科の教育目標、育成人材像に向けて、目指す検定・コンペ等について、入学前にはプレオリエンテーションを実施し意識付けを行っている。在学中は担任・科目担当を中心としてフォローを行う。スクールカウンセリング制度も整備されている。

卒業生への支援については、同窓会との連携により講演会開催やキャリアアップ支援

制度も整備されている。

保護者の会や企業の会は未整備であり今後の課題として残っている。

<委員の意見>

「企業の会」への意見:

学校単独でのこのような会の運営は、双方とも対応が難しい面が多いと感じる。例えば専各連と企業団体とで意見交換する機会を設けるのも良いのではないかと考える。

「保護者の会」への意見:

すべての保護者の参加でなくても、組織編制という形で学科ごとの責任者を2人程度選出し、その方を通し学校が話し合いをするという形であれば出来るのではないかと。

6 社会的活動

計画的・組織的に社会活動への取組を推進している。

地域の各種団体に積極的に加盟・参加しており、特に、地域イベントへのボランティア参加等では、主催団体より高い評価を頂いている。

7 管理運営

学校の管理・運営体制については、組織図・会議図等が整備され職員会等を通じて周知している。

公印管理・受発信簿も整備し運用されている。

8 財務

法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。

9 改革・改善

自己点検・評価を実施して全職員への共有機会を設けている。改善点への対応については、期限があるものについては速やかに対応し、それ以外は継続的に改善へ向けた対応を進めることとする。

<委員からの全体的な意見・指導等>

評価について

すべて4(満点)でなくてはダメだと考える必要は無いのではないかと。3くらい出来ていれ

ば評価としては一般的に高いと考える。総合的には評価の考え方をもっと柔軟に考えて良いのではないかと考える。

平成24年度と25年度を比較し、これだけきちんと自己評価しながら、学校・教育関連すべて評価が出来ている事は非常に立派だと思える。現状の「評価2」を3・4年かけて「評価3・4」にもっていくかが今後の課題と思われる。「評価4」までもっていけないものも沢山あると考える。

公表について

自己点検評価をHP等で公表する際、一般の方が見た時に「評価2」をどのように受け止めるか。学校側が今後理想に向かうという謙虚な姿勢は理解できるが、5段階の「評価3」と4段階の「評価2」では印象が大きく異なり、マイナスの印象を与えてしまうことが懸念される。5段階評価も検討しても良いのではないかと考える。

重要度ランク別に公表する方法もあるのではないかと。また項目ごとに目標の達成率を表示するなど、視覚的に全体像や全体の達成率が把握できるように工夫する必要もあると思われる。

今後の取り組みについて

ランクは「評価4」を取るのが理想だが、標準的にやっているものは「中間的评价」があっても良いのではないかと印象がある。あまり謙虚になりすぎて「評価2」を付けることで外部に不安をもたせることにもなりかねない。

評価の公表は何を目的にやっているのかで変わると思う。ホームページに載せて大々的にアピールする為なのか、それとも自分たちが改善する為なのか、目的の違いによって項目の書き方も変わってくるはず。高いものを目指していることが明示されていれば、逆にアピールすることになると思う。

何を目的にやっているのかが不明な部分がある。まず何をやっているのか、やっていないのか、やっている内容がどういう内容で、どういう効果があるのか、それが組み込まれていない。例えば「卒業率が何%でそれをどの位改善したのか。」というような部分まで踏み込んだ方が良いと思う。目的をどこに置か、そこを明確にして行った方が良いと思う。

もし自分たちの為にやるのであれば、「4」という評価で、これで満足してしまうと、「何もなくていい」状態になりはしないか。内部的には違う基準を設けた方が良いのかもしれない。

◇質問:

他校の評価フォームと公開状況について

○校長より返答:

評価フォームの指定は無いが、FSGグループは同じフォームで開示している。

◇質問:

最終的には、ほぼ4にそろえるのが目標か。

○校長より返答:

理想としてそうなるが、いかに目指していくのか、その姿勢が大事と考える。

評価によって、そこに甘んじないような形が良いのではないかと思う。例えば「評価4」の項目においても、日々問題が出てきた場合、改善していくはずなので、その改善が達成したら、その履歴を残していくのも良いのではないか。それを見ると、過去の経緯も分かり、「評価4」ではあるけれど日々改善している。「甘んじていないぞ。」という姿勢が見えるのではないかと思う。

◆小林より総括・謝礼:

本校での学校評価・関係者評価は2年目になるが、やってみて初めて「やらなければいけないこと」が見えて来ている。新たな職業実践専門課程をきっかけとして、さらに向上していけるというのは校にとって大変貴重であり、これをチャンスにしていきたいと思っている。点検を進める中で自己点検委員の間でも「やっぱりそうだったのか。」とか、「今後こうしないといけない。」とかの感想があり、大変有意義な機会となっている。

自己点検・関係者評価はPDCAサイクルの中に当てはめると、「C(チェック)」に当たるところだと思うが、大切な事は「A(アクション)」だと思っている。職業実践専門課程においてPDCAサイクルを回しながらより良い教育を目指していく事は、地域企業の皆さん方と連携した職業教育推進の仕組み作りなので、今後ともこの委員会をしっかりと運営し、結果に甘んじることなく、より良い学校づくりをしていきたいと改めて感じている。

以上